

基本計画策定に向けた意見聴取について

基本計画策定に向けた意見聴取について

1 要旨

県庁舎再整備基本計画の策定に当たり、基本構想の内容を具体化した機能・性能の検討について、昨年度のパブリックコメント等を踏まえ、下記2のとおり、庁内外から幅広く意見を聴取することとする。

2 意見聴取手法

(1) 庁内：基本理念に対応した庁内ワーキンググループを設置するとともに、執務環境について職員ワークショップ・アンケートを実施

手 法	4つの理念：具体例（想定）	対 象（構成員）
ワーキンググループ	防災：災害対策機能・DMAT活動スペース	関係各室課 懇話会委員（オザバー）
	環境：環境性能	
	協働：協働スペース・情報発信機能	
	働き方：フリーアドレス・ペーパーレス	
ワークショップアンケート	働き方：執務環境（広さ・レイアウト）	職員（本庁）等

(2) 庁外：再整備の方向性に係る県民アンケートに加え、市町村・NPO等の多様な主体を対象にワークショップ・アンケートを実施

手 法	4つの理念：具体例（想定）	対 象
ワークショップ	協働：県民協働スペース	大学生
アンケート	協働：市町村職員利用スペース	市町村
	協働：県民協働スペース	NPO・関係団体（公益法人等）
	全体の方向性：県庁舎の役割、重視すべき観点	県民（エリア別、年代別）

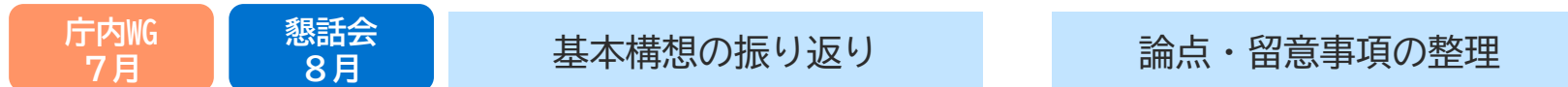
3 実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
再整備懇話会			ワークショップ・アンケート									
			【第1回】 （6月上旬）	ワーキンググループ	【第2回】 （8月上旬）	ワーキンググループ	【第3回】 （10月下旬）	【第4回】 （12月中旬）			【第5回】 （3月上旬）	

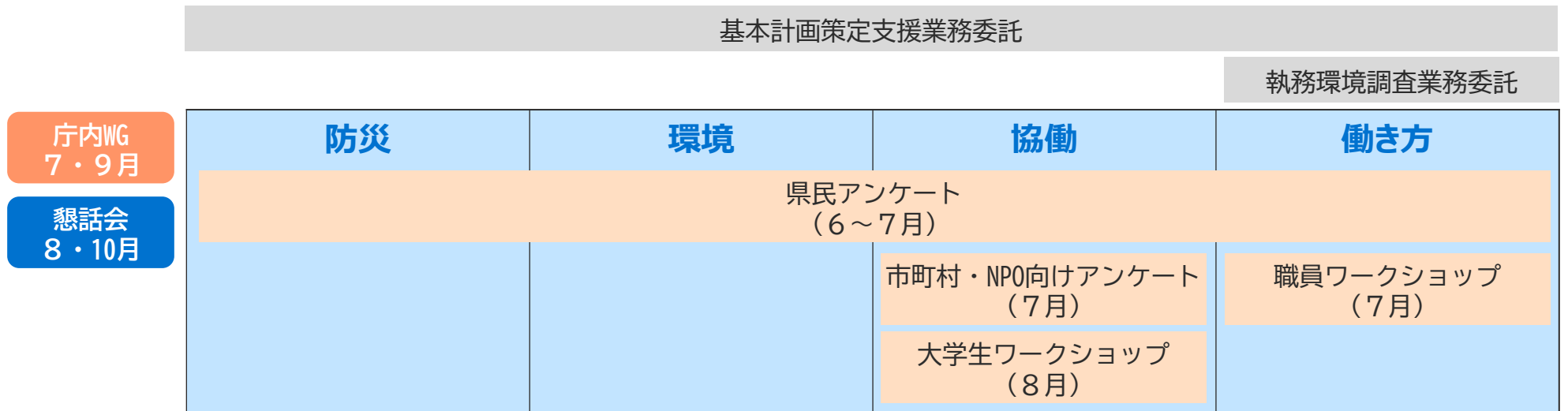
意見聴取を踏まえた導入機能・性能の検討イメージ

- ・ 意見聴取により得られた情報を踏まえ、県庁舎に求められる機能・性能を具体化する。
- ・ 4つの基本理念の観点から、事例等を踏まえつつ実現性の高い整備内容を検討する。

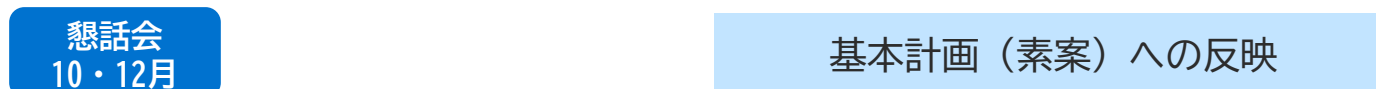
1. 前提条件等の整理



2. 機能・性能の検討



3. 基本計画への反映



(1) パブリックコメント

提出意見	検討結果
<p>「多様な主体が協働する拠点」を具現化するために、以下の2つの機能を強く要望する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コワーキングカフェの設置： ・県立図書館分館（ライブラリー機能）の設置 	<p>基本計画の策定にあたっては、コワーキングスペースやライブラリー機能について、既存施設における取組の成果や課題、県庁舎で新たに担うべき役割を整理のうえ、長期的な需要、運営の持続性、費用対効果等を踏まえ、導入の可能性について検討していく。</p>
<p>「計画」の策定にあたり、「展望スペース」「レストラン」に関しては慎重にご議論いただきたい。</p> <p>アンケート結果だとしても、魅力がなければ「せいぜい2~3回行って飽きる」といったものが実情であり、「あくまで職員食堂としての性格を維持する」「防災時の食料供給・調理に資するものとする」「展望場所としてのニーズが減少しても費用をかけずに転用できる構造とする」など、設置するとしても他のメリットも兼ねるものとしてご検討いただきたい。</p>	<p>「展望スペース」や「レストラン」については、アンケート結果等を踏まえた機能の一つとして例示したものであり、現時点で設置を決定しているものではない。</p> <p>基本計画の策定にあたっては、長期的な需要、運営の持続性、費用対効果等を十分に検証し、行政庁舎として必要な機能であるか慎重に検討していく。</p>
<p>必要面積の精度は粗い。精査にあたり、多様な当事者の意見を丁寧に把握するプロセス（アンケート、ヒアリング、ワークショップ等）が不可欠。また、機能充実とコストのトレードオフ関係を意識したアンケート等を実施いただきたい。</p>	<p>必要面積は精査を要するものと認識。基本計画の策定にあたっては、アンケートやヒアリング等、適切な手法を組み合わせながら、丁寧な意見把握を行う。必要機能については、コストとの関係性を意識しながら、合理的かつ現実的な検討を進めていく。</p>
<p>協働と働き方の項目は、図表 5-2の考え方に沿って、分けてお示しいただきたい。主な改修内容は、構想段階という位置づけを明確化し、必要性を改めてご検討いただきたい。例えば、展望スペースやコワーキングスペースは既存施設が存在するため、慎重に検討いただきたい。</p>	<p>「協働」と「働き方」の項目は、御意見のとおり図表との対応関係に不一致が生じているため、趣旨明確化のため修正。</p> <p>整備概要は例示であり、必要性や整備内容については、今後の基本計画等の検討の中で精査。展望スペースやコワーキングスペースについても、慎重に検討していく。</p>
<p>次年度以降において「アイーナ」や「いわて若者カフェ」のどこに限界があったのかを明確にしていただきたい。距離による限界や、人事交流の難しさなどの記載があるが、働き方の部分でテレワークやシステム化、ユニファイドコミュニケーションサービスの活用を謳っている内容と矛盾するように感じる。</p> <p>アイーナは後進的な施設とは言えず、アクセスも容易であるが故に、なぜ内丸でやらなければいけないかという部分の根拠・検証が、弱いと感じた。</p>	<p>「アイーナ」や「いわて若者カフェ」は、これまでNPOや大学等との連携拠点として一定の役割を果たしてきた施設であり、これら既存施設における取組の成果や課題、県庁舎で新たに担うべき役割を整理し、物理的空間の必要性和デジタルによる補完の在り方を踏まえた検討が必要であると認識。</p> <p>基本計画の策定にあたっては、識者の意見や県民の声を踏まえながら丁寧に検討していく。</p>

(2) 第6回懇話会

意見

ワークショップ等について少し気になっているのが、基本計画の策定にあたり、今回の基本構想から段階的に進めていくという理解はしていますが、一方で、スケジュールとしてはかなりタイトなところもあると思いますので、基本計画で実施する予定であるのに、実際なかなか時間が取れず形式的になってしまう可能性があることを少し気にしています。

まちづくりとの整合性を考えますと、例えば、内丸プランなど、盛岡市のまちづくりとの整合性を考えることが、どうしても優先されてしまい、**沿岸や県北、県南などの様々な地域の人にとっては他人ごとになってしまうということは非常に良くない**と思います。そこをきちんと担保できるような方法、例えば、オンラインミーティングといった方法もあり得るかもしれませんが、少し考えていただきたいと思います。

多様な主体が参画できる場を基本的なテーマにしている以上、いろいろと意見をお聞きするというステップは踏まなければいけないと思います。パブリック・コメントの意見をお聞きして感じることは、県庁に対して、パブリック側のイメージが一様ではないことです。

いわゆる、街中の1つの施設として立ち寄ることができたら良い、レストラン等があったら良いといったように感じている方から、県庁の機能を、市役所や役場のように捉えている方もいる。そういった様々なイメージが意見として集約されると抽象的になり過ぎて、建物の機能としてどのように活かすかの議論を難しくしています。**意見をお聞きする際に、どのステークホルダーを集めるのかというところを少し整理しなければならぬ**と思います。

県庁舎の使用者という観点では県庁職員、それから市町村職員であったり、関係機関であったり、それから多様な主体と呼ばれるこれから協働していこうという相手やNPOと、県民という3つの層と思っています。

県庁舎の場合は県庁舎に来られる方にどういう機能が必要なのかというところで、今日、1つ良いポイントが出てきていたのが、市町村の職員です。**特に行政の職員の方からの意見は非常に重要**と思いますし、それからNPOとか、よく県庁舎に来られる方からは、機能面のご意見をいただいた方がいいでしょう。一方で県民の意見もやはり重要なので、**県民からは象徴としての県庁舎に関する意見をもらうことが必要**でしょう。**ターゲットごとにどういう意見を求めるかということの色分けしないといけない**と思います。

パブリック・コメントが盛岡市の方だけということを私は少し気になっていて、やはり岩手県なので、盛岡市だけではありません。そうすると県北・県南・沿岸、それぞれのご意見を聴取する場合に、一番お勧めしたいのはインターネット調査で割り当てるということ。地域ごとに割り当てたり、それから、性別、年齢で割り当てたりして調査をする。質問項目についても何が欲しいかではなくて、象徴的な県庁舎としてのご意見を聴取できるような設問を設計していかないと、基本計画に役に立つような回答を得られないと思いました。

アンケート調査はアンケート調査、ワークショップはワークショップで、それぞれのターゲットに何を求めるかをまずは精査してから、意見聴取のあり方の検討を進めたらよいと思いました。